

## 令和6年度 自己評価最終報告

石川県立小松明峰高等学校 (No.1)

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	備考
(1) 主体的・自主的な学びを取り入れた学習の充実をとおして、絶対的基礎力を徹底し、生徒個々に応じた進路実現をめざす。	① 生徒による授業評価や教職員相互の授業参観、研究授業等の取組を通して、授業改善を進めて学力向上につなげる。  ② 「予習→授業→復習」の学習サイクルの確立を促して、家庭学習の充実を図る。  ③ 授業の中で生徒が思考する時間を確保し、1人1台端末を活用して、生徒個々の学びの質を高め、資質・能力の育成を図る。  ④ 生徒一人ひとりの進路実現を目指す指導の充実を図るなかで、国公立難関大学や金沢・富山・福井大学を含めた国公立大学への合格率を高める。	「満足度指標」 不断の授業改善により、生徒の学力を高め、生徒自身が「学力がついてきている」と実感する生徒が増加する。  「成果指標」 家庭学習が習慣化し、予習・復習にしっかりと取り組んでいる生徒が増加する。  「努力指標」 1人1台端末を積極的に効果的に活用する教員が増加することで、生徒も積極的に効果的に活用する生徒が増加する。  「成果指標」 国公立大学の合格者数または難関大学・金沢大学・富山大学・福井大学の合格者数が増加する。	生徒アンケートの「私は授業を通じて学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力）がついてきている」の項目に対し「当てはまる」「ほぼ当てはまる」と答える生徒の割合が  A : 95%以上 B : 90%以上 C : 85%以上 D : 85%未満  生徒アンケートの「私は予習や復習をして授業に臨んでいる（国数英3教科）」の項目に対し「当てはまる」「ほぼ当てはまる」と答える生徒の割合が  A : 70%以上 B : 60%以上 C : 50%以上 D : 50%未満  生徒アンケートの「1人1台端末を積極的・効果的に活用している」の項目に対し「当てはまる」「ほぼ当てはまる」と答える生徒の割合が  A : 70%以上 B : 60%以上 C : 50%以上 D : 50%未満  国公立大学の合格者数が  A : 110人以上 B : 100人以上 C : 90人以上 D : 90人未満	93.7%  B  65.5%  B  62.7%  B  102人  B	生徒アンケートで「当てはまる」「ほぼ当てはまる」と答えた生徒は93.4⇒93.7%に微増  授業において目標の明示、問い合わせの工夫、生徒の活動を促す等の改善に常に取り組む。  生徒アンケートで「当てはまる」「ほぼ当てはまる」と回答した生徒は63.2⇒65.5%に増加  教科の特性を踏まえて家庭学習の予習と復習に積極的に取り組むよう指導する。  生徒アンケートで「当てはまる」「ほぼ当てはまる」と回答した生徒は56.1⇒62.7%に増加  授業内容にChromebookを活用する場面を盛り込み、学習意欲の喚起や学力向上の手立てとして積極的に活用していく。  国公立大学の現役生合格者は102名で、うち難関大に京都1名と北海道2名、広島2名のほか金沢11名、富山23名、福井5名が合格した。  国立大学においても特別選抜の定員が増加しているので、生徒・保護者・教員間で情報を共有し、出願数を増加させる。
学校関係者評価委員会の評価	学力向上に関する生徒の意欲や充実感は高い水準を維持している。				
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた改善策	授業改善の追求及び進路指導方策の継続的な改善を図っていく。				

## 令和6年度 自己評価最終報告案

石川県立小松明峰高等学校 (No.2)

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	備考
(2) 学業と部活動の両立をめざすとともに、急速に変化する社会に対応し、高い志をもった、たくましく、しなやかな生徒の育成に努める。	① 文武両道を推進するなかで、各部が年度当初に立てた高みを目指す目標を達成するよう努力する。  ② 生徒が自主的に学校行事や部活動等に取り組むことができるよう、生徒主体の運営を進める。  ③ 授業の挨拶や校内の挨拶を自主的積極的におこなう。教員からの挨拶や声かけにより、生徒が自発的に挨拶する雰囲気づくりに努める。	「努力指標」 生徒が文武両道を推進するために効率的かつ効果的に活動できるように工夫している。  「満足度指標」 学校行事や部活動に積極的に取り組む生徒の割合を増やす。  「成果指標」 指導により積極的に挨拶ができる生徒の割合を増やす。	生徒アンケートの「学習と部・同好会の活動が両立するよう努力している」の項目で「当てはまる」「ほぼ当てはまる」と答えた生徒の割合が  A : 80%以上 B : 70%以上 C : 60%以上 D : 60%未満  生徒アンケートの「学校行事や部活動に積極的に取り組んでいる」の項目に対し「当てはまる」「ほぼ当てはまる」と答えた生徒の割合が  A : 95%以上 B : 90%以上 C : 85%以上 D : 85%未満  生徒アンケートの「あなたは校舎内で自発的に挨拶をしていますか」の項目に対し「当てはまる」「ほぼ当てはまる」と答えた生徒の割合が  A : 90%以上 B : 80%以上 C : 70%以上 D : 70%未満	81. 9%  A  91. 6%  B  86. 2%  B	・生徒アンケートで「当てはまる」「ほぼ当てはまる」と回答した生徒は82. 2⇒81. 9%に減  ・教員の働き方改革を推進しながら部活動運営の効率化を図り、生徒が充実感を得られるよう主体的な活動を重視する指導を目指す。  ・生徒アンケートで「当てはまる」「ほぼ当てはまる」と回答した生徒は93. 9⇒91. 6%に減  ・生徒が部活動や学校行事で目標を設定する力を育成し、主体的に取り組む場面を増やすよう指導のあり方の見直しを継続する。  ・生徒アンケートで「当てはまる」「ほぼ当てはまる」と回答した生徒は88. 2⇒86. 2%に減  ・朝の登校指導や授業、部活動等あらゆる活動の場面で引き続き指導していく。
学校関係者評価委員会の評価	部活動の加入率が高く、生徒が意欲的に高校生活の充実を図ろうとしていることがわかる。				
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた改善策	生徒の学校生活の充実度を高めるため、学校行事や部活動の運営が生徒中心になされるよう工夫する。				

## 令和6年度 自己評価最終報告案

石川県立小松明峰高等学校 (No.3)

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	備考
(3) 地域に根ざした活動や学校情報の発信を進めるとともに、学校業務の効率化を図り、保護者や地域に信頼され、必要とされる学校づくりを推進する。	① いじめ防止基本方針に基づき、全職員の共通理解の下、いじめの未然防止や対応に取り組んでいる。  ② 学校教育に対する地域の理解を得るために、校内外において、ボランティア活動の機会を広報・推奨する。  ③ ホームページで本校の特色や教育活動の様子をタイムリーに発信するとともに、情報の速やかな更新とわかりやすいページ構成に努める。またClassiを活用して必要な情報を遅延なく提供する。  ④ 教材の共有による授業準備の効率化、各種会議の縮減、業務の平準化等の取組により、生徒と向き合う時間を十分に確保する。	「努力指標」 いじめの未然防止を基本に、早期発見・早期対応を心掛けている教員の割合が増加する。  「努力指標」 ボランティア活動に参加することがあると答えた生徒の割合を増やし、地域社会・学校の一員であるという意識を高める。  「満足度指標」 学校の様々な情報発信に対して満足する保護者が増加する。  「満足度指標」 限られた時間の中で、教材研究・授業準備や生徒と向き合う時間を十分に確保しつつ、これまでの働き方を見直すことができたと感じる」の間に「当てはまる」「ほぼあてはまる」と答えた教員の割合	教員アンケートの「いじめの未然防止を基本に、早期発見・早期対応を心掛けている」の項目に対し「当てはまる」「ほぼ当てはまる」と答えた教員の割合  A : 100% B : 95%以上 C : 90%以上 D : 90%未満  ボランティア活動に参加したことがあると答えた生徒の割合  A : 60%以上 B : 50%以上 C : 40%以上 D : 40%未満  学校の情報発信に対して、「満足している」「ほぼ満足している」と答えた保護者の割合  A : 90%以上 B : 80%以上 C : 70%以上 D : 70%未満  教員アンケートの「教材研究・授業準備や生徒と向き合う時間を十分に確保しつつ、これまでの働き方を見直すことができたと感じる」の間に「当てはまる」「ほぼあてはまる」と答えた教員の割合  A : 80%以上 B : 70%以上 C : 60%以上 D : 60%未満	100%  A  48.3%  C  88.6%  B  86.9%  A	・教員アンケートで「当てはまる」「ほぼ当てはまる」と回答した教員は 97. 9 ⇒ 100 %  ・生徒をしっかりと観察し、異常の発見に努めるとともに、生徒からの情報が伝わりやすい関係性をつくるように努める。  ・生徒アンケートで「1回以上参加した」と回答した生徒は 18. 4 ⇒ 48. 3 %  ・ボランティアを身近なものとして意識するよう促すとともに、部活動での取組を強化する。  ・保護者アンケートで「満足している」「ほぼ満足している」の回答は 85. 4 ⇒ 88. 6 %  引き続き、適時適切な情報提供と迅速な広報に努める。  ・教員アンケートで「当てはまる」「ほぼあてはまる」と回答した教員は 72. 9 ⇒ 86. 9 %  教員の働き方の見直しにつながるような行事や業務の効率化を推進する。
学校関係者評価委員会の評価	学校の情報発信による魅力向上を図る努力がもっと必要である。				
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた改善策	生徒や保護者のみならず、広く地域全体に広報活動を展開していく。				